

発行・編集 学校法人皇學館 企画部  
TEL 0596-22-6496・8600

大学  
大学院・専攻科・文学部・教育学部・  
現代日本社会学部・社会福祉学部  
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704  
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校 三重県伊勢市桶部町138  
【高校】〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)  
【中学】〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

# 皇學館 第32号

学園報



第32号



「やちまた」に  
足立巻一  
しるしたり  
官長大人の  
奥津城のこと  
半田美永

### ●今号の注目記事

- 1面 清水 潔 新学長 抱負を語る
- 2面 アメリカ短期海外研修 & ホームステイ体験記
- 3面 伴五十嗣郎前学長 退任のご挨拶 新任教職員紹介
- 4・5面 学生編集ページ 歌枕の地・二見浦を歩く
- 6面 高校・中学 入学式、スポーツ大会 など
- 7面 教職員人事
- 8面 篠田学術振興基金出張報告

### ●連載

- 2面 皇學館人物列伝⑬ 廣濱文雄
- 7面 先輩、お元気ですか 出村龍日(勝明)氏 (国史学科 7期・昭和47年卒)

## 学長インタビュー

# 清水 潔 新学長 抱負を語る



伴五十嗣郎前学長の任期が平成二十三年三月三十一日で満了となったことにもない、四月一日より清水潔氏が新学長に就任した。近年、大学を取り巻く状況は厳しく、また、本学においても現代日本社会学部の創設や名張学舎の統合など環境が変化している。インタビューではそうした中で舵取りや来年迎える創立一三〇周年・再興五十周年の佳節に向けた抱負などについて伺った。

### 独自性を発揮したい

まずは就任に際して、抱負をお聞かせください。

学長 ◆大任を拜命し、心の引き締まる思いです。本学は明治十五年の創立以来、一貫して建学の精神を堅持してきました。その精神の根幹は明治三十三年に賜った賀陽宮邦憲王の令旨に示されています。わが国の伝統文化に根ざした道義と学問を明らかにし、その成果を実際に運用し、文明の発展に寄与しようとするも

具体的な取組みについては、

学長 ◆全く新しいことをするのではなく、近年進めてきた教育改善改革を着実に軌道にのせること、また旧来の指導教員制やクラス担任制など、学生ひとり一人をきめ細かにサポートする制度をはじめ、参拝見学や初学

### 世界に通じる日本人の道義心

日本人の自覚という

学長 ◆まず、日本と日本人を知る。日本の文化や歴史、特性について理解し、これを謙虚かつ敬虔な心で表現し、行動できるところ。皇室を中心とし

び(入門演習)も工夫を重ね、より質を高めていくことが重要ですね。

その意味で、大学寮の教育寮としての充実は大事です。大学は知性を養うと同時に、徳性の涵養

もあわせ知徳一体でなければなりません。大学生活だけでなく、人生を通しての考え方や行動の拠り所となる知的・道徳的基準を身につける上で、寮生活のもつ意義は大きい

です。その人間形成の基礎となるのが神道の精神で、日本人としての自覚を持った人材を育成したいと願っています。

### 教育と研究の充実を図る

今後の大学運営について、どのような戦略が必要だと思われますか。

学長 ◆先ほど申しましたように、皇學館の特色、独自性を発揮して、学生を丁寧育てることが大切だと思います。小規模校ならではのきめ細かな教育体制、取組みが評価されたのか、幸いなことに少しずつですが二年連

続で志願者が増えまして、今後は広報にも力を入れ、これまでの成果や

また、このたびの東日本大震災における被災者の冷静沈着な態度が報じられました。日本人の資質、国民性について改めて考える機会になればと思います。



平成22年8月末に完成した教育研究棟(6・7・8号館)

清水 潔 (満62歳)
任期 / 平成23年4月から4年間
職歴 (抜粋)
昭和48年 皇學館大学文学部 助手
昭和58年 皇學館大学史料編纂所 助教授
平成3年 皇學館大学史料編纂所 教授
平成4年 皇學館大学文学部 教授
平成5年 皇學館大学文学部国史学科主任
平成9年 皇學館大学神道研究所 所長
平成13年 皇學館大学 学生寮主任
平成15年 皇學館大学史料編纂所 所長
平成17年 皇學館大学 学生部長・評議員
平成19年 皇學館大学 文学部長・理事

海外メディアからも賞賛の声が寄せられました。

学長 ◆明治期の日本人をみて、ほぼ同じような評価をエルヴィン・ベルツなどもしています。外国人が日本の技術力や経済力のみではなく、国民性そのものを高く評価するのは久しぶりです。

これから日本の再生を目指すとき、まず生活環境の復興が急がねばなりません。厳しい風雪に耐えながら、高い節義や道義心を持った日本人の精神文化を再興する機会として捉えることができればと考えています。

来年迎える創立一三〇周年・再興五十周年の佳節に向けて、展望をお聞かせください。

学長 ◆おかげさまでこの数年、多くの方々からご支援をいただき、施設設備は整備されてきました。同時に本格的な大学の編纂や記念学術研究

実績を正確に積極的に伝えていきたいですね。

名張学舎の統合など、本学環境も変化しています。

学長 ◆いまこそ、全学一体の精神で進まねばなりません。

社会福祉学部については、今の福祉学に満足せず、将来の日本福祉社会をリードする神道福祉学を追求することや、現代日本社会学の学問体系を構築整備するという難しい課題があります。

最後に学生へのメッセージをお願いします

学長 ◆学生時代はぜひ読書に親しんでほしいですね。とくに時代を超えて読み継がれてきた古典を。古典的教養を身につければ自ずと日本についての理解が深まり、日本人としての自覚が芽生え、考え方や行動の基礎になると思います。

また、クラブ活動にも是非、積極的に参加してほしい。責任感、忍耐力、協調性を養い、たくましい人間性を培ってほしい。

高い志を掲げ、実行は着実に真心込めて誠実に。「一隅を照らす人間たれ」と願っています。



どうやら私たちは途方もないリスクの下で暮らしているらしい。数百年に、いや千年に一度ともいわれる東日本大震災。その遺伝子の記憶には、「想定外」の文字しかすり込まれていなかったようだ。文明の進化は日進月歩。私たちは、この震災を正確に記録し、後世に伝えなければならぬ。▼手に伊勢市発行による最大級の津波発生時におけるハザードマップがある。市内沿岸部のほとんどが浸水にあう。浸食被害はそれ以上。今一度、皆で避難場所を確認されたい。▼自然の脅威とは別に、その被害の拡がりに社会的・地理的・時間的に限界のない不気味な災害もある。原発事故だ。文明がもたらした弊害。豊かさ・利便さの裏にある影。人災は、「想定外」では済まされない。▼豆腐の上にあると例えられる日本の原子力発電所。そのなかでも活断層上にあり、最も危険とされる静岡の浜岡原発が停止した。▼私たちは今、原発事故への対応と夏の電力不足という難題に直面している。電力は無尽蔵でないことを再認識した。節電と同時に、再生可能な自然エネルギーの利用へ舵を切っていくことは私たち世代の責務でもある。

# 学んだことを今後に使いたい アメリカ短期海外研修&ホームステイ体験記

本学では三年前からライトハウス・キャリアエ  
ンカレッジ株式会社と提携し、アメリカ短期海外  
研修&ホームステイプログラムを実施している。  
今年も計八名が参加し、体験談を語ってくれた。

教育学部二年生  
森 瑞 紀

私がLAに短期留学したのは二つの理由があります。それは、言葉だけでなく実行につけてみることで、自分らしさを外国でも発揮できるか、ということなんです。つまり前者は、いつも「英語の勉強をしている」という自分自身に対する挑戦状でもあります。それはある意味、勉強をしていることを理由にして何も行動につつまず、日本の中で使う日本の英語という小さな枠にとどまらず、気をつけてしまったからです。日本なら英語の勉強はどこでも出来る。でも今この時期にそれだけで満足していいのか、そうではないと自分自身に對する矛盾と憤りを感じて



教え方や子どもへの接し方は少しずつ異なる

「勉強」という言葉を意識して使った。それと同時に何かひびひかかっていたのです。英語で表すと、Learning of studyingの違いでした。つまり学ぶべきことと勉強と誤って理解していったのです。私がLA短期留学で主にしたことはlearning, そのものでした。人から何かを教わり、文化間の違いや、言葉の違う指導法、自分自身に對するコンプレックスの払拭などは全て勉強ではなく向こうで学んだことです。講義や英検の勉強、というようにstudyingのイメージがつきがちですが、本当に心の底から「学ぶって楽しい！」と思える瞬間はlearningに近いものであると私はLA短期留学を通じて痛感しました。もう一つ、私は自分の性格や人生、価値観をた

どとしい英語で伝えてみました。日本だと何か恥かしいようなことでも、向うついでにshare という言い方をし、話してくれることで相互理解が深まるという素晴らしい文化がありました。更に嬉しかったのが、それをホストファミリーのみんなや、担任の先生方が褒めてくれたことです。ホストファミリーのお父さんは「お前は本を

教育学部二年生  
永 井 航 太

僕は自分が今まで培ってきた英語能力を試してみたいなと思った。この研修に参加しようと思いましたが、またアメリカで実際に生の英語に触れることにより、新たに多くを学ぶことができると感じたのも参加した理由の一つです。

現地の小学校では、アシスタントティーチャーとして子どもたちの学習に携わることができ、より教員になりたいという気持ちが強くなりました。アメリカの給食を食べたり、生徒も先生もみんな緑色の服を着て登校するグリーンデイやパジャマを着て登校するパジャマデイなどという日本には存在しない文化に触れることもできました。また、現地の学校にはYMCAという終業後に親が迎えに来ることができない子供たちを預かる施設もあり、学校の充実したシステムに驚きました。ホームステイ先ではホ

出すべきだ！お前ならやれる！世界を変えてみる！」と言ってくれました。楽しい時間は過ぎて、帰国してから私は終始一貫して少しずつ世界を変えていく努力を積み重ねています。この体験を一生の宝とするか、ただの高い旅行になるかは自分次第ということ肝に銘じて。



英語で授業の支援をするという貴重な体験

ななかつらいものがある。テレビを見たり、買い物に行ったりなど楽しい時間を共に過ごすことができなりました。また、ホームステイ先には僕以外に二人のサウジアラビア人がホームステイをしていて、その子たちの大学の友人たちとビーチでフットボールをしたり、サッカーをしたり、町に出かけたりなど自分から積極的に働きかけたおかげで多くの友達ができ、様々な人種と異文化交流することができました。

ただ、この研修で唯一つらかったのはホームステイ先での食事です。ホストファミリーが老夫婦だったというのもあるかもしれないませんが、料理にほとんど味がありませんでした。そしてアメリカでは日本と違い「Yes」と「No」がとてもはっきりしているため、あいまいな答えはNGで、好きなものはいいですが、嫌いなものをはっきり嫌いと言えないのは日本人の僕にとつ

落ち込むことも多々ありましたが、以前より少しですが積極的になれた気がしました。そして、この研修を通して学んだことや感じたことをこれから人と関わる中で生かしていくので自分の英語力に

## 希望胸に七九三名入学



清水新学長の令旨奉読

四月三日、平成二十三年度皇學館大学入学式が記念講堂で行われた。文学部三七〇名、教育学部二四二名、現代日本社会学部二八八名、大学院十名、専攻科三十三名、編入学六名の計七九三名。遅咲きの桜がほころぶなか、新入生が新しい生活を送る中、今年度の入学式は、東日本大震災への黙とうで始まった。開式の辞、国家斉唱の後、清水新学長が令旨を奉読。清水学長は式辞のなかで令旨は建学の精神を最も簡潔明瞭に、的確にあらわしたものだと思え、神道の精神を学び、世界に通用する人材になるために、読書に励んでください」とメッセージを送った。続く佐古一朗理事長の告辞でも「日本人であることを認識し、自国の伝統や文化を畏敬することが他国の理解につながる」と、真に国際人をめざすよう宮司 鷹司尚武氏から祝辞をいただいた。最後に新入生代表五名が堂々と宣誓を読み上げて、式は滞りなく終了した。

# 皇學館 人物列伝13 廣濱文雄

ひろはま ふみお ◆昭和十五年に神宮皇學館大学予科入学。敗戦後、昭和二十一年に学部政教専攻卒業となる。その後、京都大学文学部へ入学。卒業後は草創期の国立国語研究所で研究に従事する。専門は訓点語学。昭和六十二年に皇學館大学国文学科教授として着任。代表的な著書に「新版本書目」がある。大正十一年九月二十一日、平成十三年三月二十一日。

その名を聞いて、講筈に列したものは思わず居住いを糺すであろう。しかし、また、より深く関わった者は繊細で洒落た人柄に魅了された。その教育方針は「常に一流」というテーマに基づくものであった。廣濱文雄は、父嘉雄が東北帝国大学法文学部教授（民法学）であったことから少年期を仙台で過ごした。昭和十五年仙台中から神宮皇學館大学予科入学。学部へ進むが、在学中生徒団により第十四期海軍飛行専修予備学生となる。海軍同期に裏千家玄室宗匠、俳優の西村晃らいた。鹿児島県出水基地で神風特別攻撃隊無窮隊の一員となったが、搭乗した飛行機が不時着したため傷を負いながらも生還した。敗戦後、学生の立場から文部省へ神宮皇學館大学の存続を働きかけるものの、いわゆる神道指令により昭和二十一年廃学。同時に学部政教専攻卒業となる。在学中昭和十七年にレポートとして書いた「玉匣」『秘本玉くしげ』に見える本居宣長の刑罰は父嘉雄の追悼記念論文『法と法教育』（勤草書房）に収められている。その後、京都大学文学部へ入学。遠藤嘉基の下で国語学を専攻する。卒業後の昭和二十四年、創設間もない国立国語研究所員となった。国立国語研究所（国研）は安藤正次、柳田國男らが創設委員となって国会に働きかけて設置されたわが国の国語施策の基礎データを調査研究する機関である。所長は国語教育で有名な西尾実であった。所員には俊英が集められ、同僚には林大、柴田武、水谷静夫らがいた。国研は当初「国語の歴史的発達」もテーマとして設定していた。廣濱も見聞家らと「明治初期の新聞の用語」などの研究に従事し、また、近代語研究室に引き続き古代語研究室を設置する方向で、廣濱は開設準備室の主任研究官を務めていた。ところが、どという事情からか結局古

代語研究室は開設されることはなかった。昭和四十年、国研から移った天理大学では、文学部長、教務部長を歴任し、『日本語地図』の編集に尽力したW・A・グローター神父の助言を得ながら学生たちとともに『奈良県と三重県の境界方言地図』を完成させる。国研を離れてからの廣濱は訓点語学に加えて『日本語地図』の詳細調査や日本語教育にも力を注いだ。昭和六十二年皇學館大学国文学科教授着任。厳しい指導方針は「楽文」とされていた国文学科の学生たちを震撼させた。着任年度の国文学科四年生は卒業論文の不出者八名、教員採用試験合格者を含む不可者九名を数えたことからもいかにその影響が大きかったかを物語る。これもすべては「一流」のためであり、学生は後にその難しさを痛感した。平成十三年、いかに廣濱らしく格好良きくあさり白玉楼中の人となった。その蔵書はすべて皇學館大学に納められている。文学部准教授 齋藤 平





海岸では貝殻探しに夢中

### 旅を終えて…

中田彩加 ● 教育学科 4年



初めて二見をゆっくり見て回りました。西行や芭蕉をはじめ多くの有名な歌人や文人が訪れていたり、賓日館では床の間の天井板に屋久杉が使われていたり、二見には誇れるものがたくさんあるという新しい発見ができ、とても魅力を感じました。昔ながらの街並みや海岸沿いも風情があり、のんびり歩いていると本当に気持ちよかったです。今回は、「塩」をテーマにいろんな神社も回りました。

塩をつくるのにたくさんの人の協力があって、その塩とつながりがある「塩ようかん」や手作りの「岩戸の塩」など、昔も今も二見全体に「塩」が深く関わっていました。塩は私たち人間にとって、とても大切なもの。だからこそ、二見の塩がいろんな人に伝わってほしいと思います。



前川美沙穂 ● 教育学科 4年

二見浦の街を散策してみて、たくさんの発見や驚きがありました。皇學館大学では、毎年の参拝見学で神宮ゆかりの地を巡ります。今回は御塩浜や御塩殿、塩工房を見学し、二見浦で作られた御塩も、神宮と深い関わりがあることを知りました。二見浦の地もまた、古くから重要な役割を果たしてきたのだと実感しました。そして、二見浦の塩を使って作られた塩ようかんは、人々の塩への思いが詰まっており、とてもおいしかったです。二見浦で出会った人たちは、私たちをあたたく迎え、明るく楽しく話をしてくださりました。二見浦はとてもあたたくい街です。今回知った二見浦の魅力がたくさんの人に伝えたいと思います。



日置彩里 ● 教育学科 4年

二見浦には、芭蕉が西行を慕ってやって来た時に詠んだ歌の碑があります。今、自分が立っているところに、かつて西行や芭蕉も立っていたのだと思うと感慨深いものが込み上げてきました。二見浦を見渡すように建っている賓日館も、明治以降様々な人を客として出迎えてきた歴史的建造物。賓日館の内装は部屋ごとに様々な工芸が施されており、説明して下さった方いわく、じっくり解説すると6時間もかかるそうです。

今日まで、私にとっての二見のイメージは、夫婦岩とシーパラダイスだけでした。こんなに近くに住んでいるのに、二見の魅力全然知らずにいたのです。二見には、歴史だけでなく、塩ようかんや貝飯などの名物もあります。もっとたくさんの方に二見の良さや歴史を知ってもらいたいと思う取材でした。

#### 1 御塩浜

御塩浜の製塩方法は「入浜式塩田」といわれるもの。入口には黒木の鳥居が立てられ、丸太橋で御塩浜に入る。広さは6600平方メートル。濃い塩水をとる「採かん」作業まで6工程あり、入念な下準備のもとで行われている。



#### 2 御塩殿神社

当時は御塩殿(写真)から外宮へと、御塩を運んだ「御塩道」があった。毎年10月5日には神社で御塩殿祭が執り行われ、御塩固の安全と日本の塩業の発展が祈念される。その後、5日間にわたって御塩殿で堅塩が奉製される。



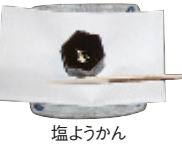
#### 3 堅田神社

神宮の摂社。堅田というのは湯田(かた)との意味で、海岸の入江になっている所の田を指す。祭神は佐見都日女命(さみつひめのみこと)。堅塩を奉納した古事により、倭姫命に定められたと伝わっている。



#### 4 五十鈴勢語庵

塩ようかんが人気の甘味処。店内には貝で作ったルームランプなど、ご主人お手製の品々が飾られ目を楽しませてくれる。



塩ようかん



#### 5 賓日館

明治20年に建てられた賓客の休憩・宿泊施設。現在は資料館やイベント交流の場として活用されている。建築様式、庭、建具などいずれも当時随一の建築家や庭師、職人の手によるもので、日本の伝統美を今に伝えている。



細部にまで凝った意匠が施されている。ゆらいだ窓ガラスも貴重品だ。

#### 6 岩戸の塩工房

にがりを残すことによってミネラル成分が豊富になる、と工房長の百木さん。釜焚きには廃材を燃料にしている、宮川村の間伐材をもらう代わりに塩を提供する物々交換のような仕組みだそう。さまざまな人が助け合いながら塩を作っていることが分かった。



#### 7 二見興玉神社・夫婦岩

夫婦岩にかかる大注連縄は神の世と俗界の結界の縄とされている。夏至の日はは岩と岩のちょうど真ん中から太陽が昇るため、御来光を拝もうと参拝者やカメラマンが数多く訪れる。



二見興玉神社の手水舎に置かれたカエルに水をかけると、幸運が訪れるらしい



昼食は、多市屋で貝飯・伊勢うどんセットをいただいた。貝飯にはサザエが入っていて、薄味とてもおいしかった。

## クローズアップゼミ 研究室探訪 11



国史学科 教授 松浦光修ゼミ

この歳になって、ふりかえてみると、私の「歴史学」についての考え方のもとになっているのは、たぶん小林秀雄という人の、ものの考え方ではないか、と思います。とくにその「歴史と文学」という講演録は、10代のころから今にいたるまで、なんども読み返してきました。そのなかで小林は、こう言っています。「現代の通念により、過去を確かめる事が、何が客観的な態度であろうか。一時代の風潮に埋没し、そこから多くの遠い時代を眺める事が、何が歴史家の眼光ですか」(『歴史と文学』)。

これは昭和16年の発言ですから、今から70年も昔のものなのですが、小林が、きびしく批判している歴史学の傾向は、今もあい変わらず…というよりも、ますます顕著になっているように思われます。小林が言う「現代のフィルター」で歴史を見る愚

代の通念により、過去を確かめる」というのは、つまり「現代」という「フィルター」を通して過去を語る…という態度をいうのでしょうか。そのような、いわば「歴史まがい」の言説が、戦前から、学界でもマスコミで

も教育現場でも、あたかも「ほんとうの歴史」であるかのような「仮面」をつけて、知識人の世界で乱舞してきましたし、今も、同じように乱舞しつづけています。

近代の国民は、わが国の歴史の知識を、おもに小説や読み物、あるいは映画やテレビなどで得てきました。「歴史学者の書いた本」などは、ほとんど読まれていません。そのため世間には、デタラメな歴史認識も広まっているのでしょうか。しかし、考えてみると悪いのは国民ではなく、歴史学者の方ではないか、という気もしています。

学生編集ページ

学生記者募集!.....興味のある人は企画部まで!

K O D A I S M



# 歌枕の地 二見浦を歩く



日の出の名所として有名な二見。神宮との関係が深く、とくに、神宮御料の塩田・御塩浜では2000年も前から御塩づくりが行われています。町内には堅田神社や神前神社など神宮ゆかりの摂社・末社が数多く鎮座。また、歌枕の地としても知られ、歌人・西行や俳聖・松尾芭蕉など多くの文人墨客が訪れています。この旅では今なお多くの人を惹き付けてやまない二見浦を歩き、その魅力を探ります。

## 詩心誘う、“清渚”

二見という地名の由来については諸説あり、内宮から流れてくる五十鈴川が二見を挟むように東西二手に分かれて伊勢湾へ注いでいることから「二水」が二見となった説、はたまた、天照大御神の鎮座地を探し求めた倭姫命がこの地を離れる際、景色の美しさに「二度振り返って見た」ことにちなむ、等々。正確なところは不明だが、風光明媚な風景を眺めていると、倭姫命の気持ちがわかる気がする。

白砂青松の海岸風景は歌人・西行や松尾芭蕉、鴨長明など数多くの文人墨客を惹き付けた。点在する歌碑や句碑を詠むと、二見浦の光景がいかに風流人の心をとらえてきたのか伝わってくる。その思いを無碍にしないためにも、二見の海や自然は後世に残していくべきものだと感じた。

また、二見の海は古くから“清渚”と呼ばれ、伊勢神宮に参拝する前に身を清める禊の浜であったという。明治には日本初の「海水浴場」として指定され、大正天皇も幼少時に水泳



松尾芭蕉の句碑の前にて。二見浦まちなみ案内人の奥野さんに解説していただいた。

の訓練をしたと言われている。当時は娯楽ではなく治療のために訪れていたようだ。

## 2000年の歴史を持つ御塩づくり

二見は神宮とも縁が深い。神饌として納められる野菜や果物を栽培する神宮御園、五十鈴川の河口に近い汐合橋から北に500メートルほどのところには御塩浜がある。御塩づくりの歴史はおよそ2000年前からというから驚きだ。御塩浜清掃員の福井さんによると、この場所にあるのは、海水に淡水が混じった方がきめ細かい塩ができるためだそう。毎年夏の土用の頃に御塩浜へ海水を引き入れ、濃い塩水を作る作業が一週間ほど行われる。それ以外の時でも、使わない間に草が生えてしまうため人の手によって丁寧に刈り取るなど地道な準備が欠かせない。このご時世、

従事するのは年配の方がほとんどで、若者は少ないようだ。

ここから東へ歩くと、御塩殿神社がある。裏手には御塩殿・御塩汲入所・御塩焼所が建っており、外から拝見させていただいた。8月上旬の荒塩づくりの際は釜に約108リットルの塩水が入れられ、1つの釜につき4、5時間、2名ずつ一昼夜交代で焚くのだそう。精製された荒塩を焼き固める「御塩焼固」の作業は1年のうち10月と3月の計10日間。それぞれの月で100個ずつ、計200個の堅塩が奉製される。使用される型は1回ごとに作り直す。工程ごとにそのためだけの建物、道具があるのも、すべては神様に感謝の念をもってお供えするため。さまざまな人の手作業と真心が一つになって初めて奉納ができるのだと改めて感じた。

## 「塩」を町おこしの起爆剤に

伝統ある二見の御塩づくりだが、ここに来て塩を使った新しい名物が登場している。その一つが五十鈴勢語庵の「塩ようかん」だ。口に入れるとほんのり塩の味が効いていて、一層甘く感じる。お茶ではなく、お抹茶とあわせていただくのもこの店ならではの趣向だ。ほかに、塩アイ



五十鈴勢語庵で塩ようかんをいただく。店内にはつばめが巣を3つも作ってあった。



御塩浜に到着。夏は浜が高温になるが、裸足で作業を行うそうだ。



御塩殿にて焼き固めの奉仕にあたる喜多井さんに説明を受ける。奥の建物は御塩汲入所。中には12個の壺が置かれている。地面からすぐに萱屋根がふかかれているが、これは「天地根元造り」と呼ばれる貴重な建築様式。



岩戸の塩工房を見学させていただいた。工房長の百木さんの話によると、1トンの海水から15キロの塩ができる。できあがりは黄味がかかったクリーム色で、まろやかな味だった。



目を使ったりいろいろなグッズが並ぶ土産物屋さん



往時の雰囲気を漂わせる二見浦の旅館街

スなども商品化されており、塩スイーツで町おこしができるのではないかと話でひとしきり盛り上がった。

## 1日では足りない名所巡り

通りをぶらり歩くと、旅館街へ出た。木造3階建ての珍しい純和風旅館をはじめ、往時の面影を伝える建物が軒を連ねている。

中でも一際目を引くのが現在、観光施設として公開されている賓日館だ。正面玄関は唐破風の堂々たる伝統建築。明治時代、伊勢神宮に参拝する賓客の休憩・宿泊施設として建てられ、幼少の大正天皇をはじめ、皇族や各界要人が数多く滞在した由緒ある建物だ。今では手に入らない屋久杉の一枚板が使われていたり洒落のきいた仕掛けが施されていたり、美しい意匠と贅のしつらえがそこかしこに散りばめられている。

伊勢志摩の代表的な景勝地である二見興玉神社にも参拝した。御祭神の猿田彦大神は、天孫降臨の際に道案内をしたことから、交通安全の守護神とされている。その時、大神のお使いをしたのが蛙だったため境内の至る所に蛙の置物が。無事帰る、貸したものが返る、若返るなどのご利益があるそう。波間に浮かぶ夫婦岩は海中にある興玉(沖魂)神石を拝むための鳥居。天候が良ければ岩間から富士山が見え、その先の皇居も遥拝できる。これらが一直線上にあることは偶然だろうか。考えるほどに、神秘的なものを感じる。



ご利益がありますように

気が付けばあっという間の5時間だった。身近にある場所なのに、今まで知らなかったことが多くとても勉強になった。もう一度、友達や家族とゆっくり時間をかけて巡りたい。

# 三六二名が新生活スタート

四月九日、平成二十三年度第四十九回皇學館高等学校入学式が記念講堂で行われた。新生活をスタートさせたのは新入生三六二名。皆、緊張した面持ちで式に臨んでいた。以下、新入生代表、在校生代表の言葉を掲載する。

## 希望と不安と期待と

一年八組 山本 真鈴

いきなり入学式での宣誓という大役から始まり、在校生の先輩方との対面式では、新入生代表挨拶と入学早々戸惑うばかりのこの数日でした。どの高校に進学することが自分にとって一番良いか？中学三年になってから考えに考えて出した答えが、皇學館高校(特進)でした。希望通りの高校に進学でき、嬉しい春を迎えることができました。皇學館高校を選んだ理由は、中学生の時、在校生の方々と通学途中で見ていて、礼儀正しく、制服の着こなしもきちんとしているなあ！と感じたこと。学校の教育方針や施設の素晴らしさ。そして父の母校でもあり、いろいろアドバイスしてくれたからです。生活環境が変わり、心配と不安で体調

## どれだけ充実させるかはあなた次第

総務委員長 三年八組 中谷 賢司

新一年生の皆さん、入学おめでとうございます。これから始まる三年間の高校生活への期待と不安の中、希望を抱いていることと思います。そして僅かな緊張感を持っていてほしい。その緊張感を忘れず、自分は将来どういったことがしたいのかを今一度しっかり考えてみてく

ださい。その上で夢を持ち、それを達成するためには何をどうすべきかを考え、実行してください。その先に、あなた方の素晴らしい未来が待っているものと思います。日々の学校生活がより楽しく、充実したものになるかどうかはあなたの方次第だと思います。限り参加し、いろいろな体験を積み重ねていきたいと思います。やっとスタートした高校生活、まだまだ毎日毎日が戸惑う日々ですが、何事も常に前向きに考え、楽しく、充実した三年間を送りたいと思います。最後に、私たちは無事新しい高校生活をスタートすることができましたが、三月十一日の東日本大震災に



入学者宣誓

みまわれた地域の同じ新入生は、入学式すらできない状況のようです。あたりまえのように入学し、あたりまえのように高校生活を送るのでなく、自分の今の環境をありがたみを感じ、感謝して過ごしていきたいと思います。よろしくお祈りします。

## 皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業 寄付金進捗状況

皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業募金活動は、十九年六月、正式にスタートいたしました。これは、募金活動の中心を「生徒の教育活動支援」に置いているものであります。四月三十日現在の募金状況は、次の通りになっております。ご協力いただいた皆さまのご理解に感謝申し上げますと同時に、今後の賛同・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

皇學館高等学校創立50周年・皇學館中学校創立35周年記念事業寄付金進捗状況 平成23年4月30日現在

区分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	3	450,000	450,000
企業	42	4,240,000	4,180,000
一般 (旧教職員・篤志家等)	15	435,000	435,000
同窓会会員	152	6,876,000	6,876,000
後援会賛助会員	65	1,105,000	1,105,000
本法人関係	125	3,685,000	3,635,000
合計	402	16,791,000	16,681,000

## 皇高NEWS



学校長式辞

## 51名が入学 第33期生 入学式

桜が咲き始め暖かい陽気に包まれた四月六日にセミナーホールで第三十三期生の入学式が行われた。緊張した面持ちで登校してきた新入生は校友会役員の先輩から名札を受け取り、座席に案内された。式典では、国歌斉唱、賀陽宮邦憲王殿下台旨奉読に続き、担任からひとり一人呼名されたと、元氣よく返事し起立した。五十一名の入学が許可された後、学校長式辞、理事長告辞、保護者会長祝辞と続いた。在校生代表として総務副委員長の八木綾那さん(三B)

が歓迎の言葉を述べ、入学者宣誓を新入生代表として東美海さんが立派に読み上げた。式後、初めての学級指導に向かった。緊張も少しほぐれ、担任の先生の話に少しずつ笑みがこぼれた。皇學館中学生としての新生活のスタートを切った。



校友会役員からの名札付け

## 新入生オリエンテーションを開催

四月八日から十二日の三日間で新入生対象オリエンテーションが行われた。



『この先生はだ〜れだ?』でものまねをする校友会生徒

初日の対面式ではセミナーホールにて代表挨拶の後「この先生はだ〜れだ?」というものまねクイズをした。一年生が少しでも学校に慣れ、先生の名前を覚えられるように校友会役員が春休みから計画してきたもので大変盛り上がった。第二日は初めに参拝の作法と心得を学び、入学の報告に神宮へ参拝にいき、立派に行うことができた。最終日、クラスでの活動がスタートし常任委員・教科委員などがみながら協力して決めることができた。その後、教務や訓育の先生方から中学生の自覚を持って生活するよう教えて頂き、集中して話を聞くことができた。オリエンテーションの最後は楽しみにしていた部活紹介。先輩達も春休みに一生懸命準備してきたことを



部活紹介(陸上部)

## 皇中NEWS

## 学年の壁を越えて応援

### 新入生歓迎スポーツ大会

四月二十五日に第二体育館で新入生歓迎ドッチボール大会が行われた。昨年は体育館改修のため実施されなかった

ので、一年生だけでなく、三年生も楽しみにしていた。男子別にA組B組とも三チームの縦割りで結成され、男女各六チームで戦いを繰り広げた。

総務委員長が注意事項を述べたあと、縦割りで行われる競技である数少ない機会なので、学年の壁を越えてみんなと一緒に応援しましょう」との呼びかけがあった。

競技が始まると、選手は先輩が後輩にボールを渡してあげたり、応援生徒は下級生を交えての応援を送ったりと全校生徒が一丸となってイベントを盛り上げていた。結果は男子優勝Bチーム、準優勝



競技開始前の一致団結

ACチーム、女子優勝BBチーム、準優勝BAチームとなった。



盛り上がる試合

教職員人事

( )は旧職

大 学

退職 平成23年3月31日付 学長(文学部教授) 伴五十郎郎...

任用 平成23年4月1日付 学長 清水 潔 (文学部教授)...

兼任 平成23年4月1日付 文学部長 半田 美永 (文学部教授)...

情報処理センター長 筒井 琢磨 (現代日本社会学部教授)...

学生寮寮主 田浦 雅徳 (文学部教授) 総務部総務課長 堀井 史仁...

文学部助教 木村 徳宏 (文学部助手) 財務部部長心得 竹内 央...

現代日本社会学部准教授 吉田 明弘 (社会福祉学部准教授)...

現代日本社会学部准教授 藤井 恭子 (社会福祉学部准教授)...

学生支援部実習支援担当 森 正樹 (社会福祉学部事務課長)...

採用 平成23年4月1日付 養護助教 小林 美紀 (常勤講師)...

宗教界(神社会)

館 友

尊の会(保護者の会)

本法人関係

創立130周年・再興50周年記念事業 寄付者芳名

創立一三〇周年・再興五十周年記念事業募金につきて、学内外の方々から変わらぬ励ましと...

創立130周年・再興50周年記念事業寄付金 進捗状況

Table with columns: 区分, 申込件数, 申込金額(円), 納入金額(円). Rows include 宗教界, 館友, 篤志家, 尊の会, 企業, 本法人関係, 合計.



出村龍日(勝明)氏 (宗八大龍王神八江聖国総裁)

OB・OG訪問 先輩、お元気ですか... 亡き父に「伊勢に行け、伊勢には皇學館大学という日本一の大学がある。」と...

高 校

中 学

滋賀県 八十万円 [三千万円増額] 日吉大社様 (大津市坂本)

三重県 三万円 上野 秀司様

教育学科 三万円 加納 靖久様

五万円 栗原 輝雄様 二万円 竹林 千秋様

企画部長 藤原 正憲 (社会福祉学部事務課長)...

教育学部准教授 片山 靖富 (教育学部助教)...

教育学部准教授 吉田 明弘 (社会福祉学部准教授)...

現代日本社会学部准教授 藤井 恭子 (社会福祉学部准教授)...

学生支援部実習支援担当 森 正樹 (社会福祉学部事務課長)...

採用 平成23年4月1日付 常勤講師 渡邊 航一

6月 イベント情報(6~7月)

- 9日 史學會講演会 621教室  
日本におけるポーランド人墓碑の探索  
●ワルシャワ大学東洋学部日本学科長 エヴァ・パワシュルトコフスカ氏
- 11日 月例文化講座 431教室  
よりよく子どもを見つめるために  
●有門秀記 教育学部准教授  
皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野  
古事記を読む「イザナミノミコトの死」  
●白山芳太郎 文学部教授
- 12日 伊賀市文化フォーラム2011 伊賀上野交流研修センター  
伊賀のことば ●齋藤平 文学部准教授
- 16日 現代日本塾 621教室  
アジア太平洋学とアジア太平洋大学  
●立命館大学副総長・前立命館アジア太平洋大学学長 モンテ・カセム氏
- 18日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野  
神道と仏教「神仏習合の諸相③ 神前読経」  
●河野訓 文学部教授  
名張ふるさと講座 名張市防災センター  
住み続けたいと思えるまちとは  
●筒井琢磨 現代日本社会学部教授
- 19日 遷宮記念講演会 北海道開拓記念館  
伊勢の神宮と天照大神 ●伴五十嗣郎 文学部教授
- 25日 神道博物館教養講座 佐川記念神道博物館講義室  
日本の祭りⅧ「白山の自然と信仰」  
●白山比咩神社宮司 村山和臣氏
- 26日 伊賀市文化フォーラム2011 伊賀上野交流研修センター  
怨霊の鎮魂 ●三重大学人文学部教授 山田雄司氏、  
[コメンテーター] 白山芳太郎 文学部教授
- 7月
- 2日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野  
特別公開講座「日本古代の罪と祓〜大祓詞講釈〜(2)」  
●本澤雅史 文学部教授
- 9日 月例文化講座 431教室  
子どもの育ちと遊び ●田口鉄久 教育学部教授  
皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野  
古事記を読む「禊ぎ」 ●白山芳太郎 文学部教授  
伊賀市文化フォーラム2011 伊賀上野交流研修センター  
子どもたちはいま—子どもの権利と大人の役割—  
●楡垣博子 教育学部教授
- 11日 教育講演会 ウィンクあいち(愛知県産業労働センター)  
日本が必要とするリーダーシップ  
●東海旅客鉄道株式会社取締役会長/本学客員教授 葛西敬之氏
- 16日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野  
特別公開講座「戦う神主たち」 ●松本丘 文学部准教授  
みえアカデミックセミナー2011 三重県文化会館レセプションルーム  
「源氏物語」は、いつ、誰によって作られたのか?  
●中川照将 文学部准教授  
禅宗の「十牛図」とその周辺 ●松下道信 文学部講師
- 22日 神道研究所公開学術講演会 231教室  
神功皇后伝説の成り立ち  
●堺女子短期大学名誉学長・名誉教授 塚口義信氏
- 23日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野  
神道と仏教「神仏分離の諸相① 江戸時代の神道家  
による仏教批判」 ●河野訓 文学部教授
- 30日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野  
古事記を読む「スサノオノミコト」  
●白山芳太郎 文学部教授

- 共催講座(近鉄文化サロン阿倍野)のみ有料  
お問合せ▶近鉄文化サロン阿倍野 ☎0120-106-718
- 神道博物館教養講座  
お問合せ▶☎0596-22-6471 ※事前の申込みが必要(先着順)
- その他 お問合せ▶皇學館大学 企画部 ☎0596-22-6496

編集後記  
◆32号より企画部が学園報を担当することになりました。慣れない作業のなか無事に発刊でき、スタッフ一同胸を撫で下ろしております。今後より良い紙面にすべく、ご意見・お気付きの点がございましたらお気軽にご連絡ください。取り上げたいイベントや人物等の情報もお待ちしています。【企画部】

篠田学術振興基金

「アジア的福祉文化の構造と課題に関する総合的研究」報告



上/中国社会科学院日本研究所での研究発表  
下/韓国城南市暎園大学校キャンパスにて

平成二十二年度から同二十三年度の二年間、課題の研究助成を受けることになりました。この研究は、これまでの成果を基礎に、さらに中国、韓国の研究者と交流を深めて、「アジア的福祉文化」の意義を探求していくことをねらいとしています。

具体的には、学術交流を社会活動実践と関わりを持たせることで、地域や家族の福祉課題を伝統文化に基づく価値観によ

つて、解決の方向性を探ることができるとはな

いかという立場を提起していくことにあります。

二月十九日から二十二日まで、中国社会科学院を訪ね、これまで交流を重ねてきた日本研究所・社会文化室の研究者のみならず、日本、中国のそれぞれの福祉課題について討議してきました。

私たちがは、市民意識調査、ボランティア意識調査など独自に実施した調査データを提示し、伝統文化による価値観と福祉課題との関連性を提起しました。社会文化室の研究者からは、現代中国の福祉政策の方向性、市民の価値意識の動向などが示されました。

そこで、地域社会の活動を拡充していく課題として、市民相互のつながりをつけていくために、伝統文化の持つ役割の重要性を確認することができました。

三月八〜十日まで、韓国・城南市の暎園大学校を訪ね、同大学校イ・エリョン先生から現代韓国の福祉事情についての講義を受け、また、市内の福祉施設を訪ね、福祉サービスの現状について説明して頂きました。

これらのことから、韓国社会は女性の社会的進出が予想を上回るスピードで進み、その活躍の幅

が拡大してきている現状を学ぶことができました。また、利用者本位に立つて多様な福祉サービス提供を目指していることを、施設見学をおして理解を深めることができました。

以上、昨年度の学術交流について述べましたが、今年度は中国、韓国の研究者を名張市に招き、三万の福祉課題と伝統文化との関連を学術交流、地域交流をとおして明らかにしていくシンポジウムを計画しています。

社会福祉学部教授  
宮城洋一郎



住吉大社本殿御帳台

すみよしだいしゃほんでん みちようだい

住吉大社(大阪市鎮座)の本殿神座として殿内に安置されていた御帳台。元は同社の摂社大海神社本殿の神座として使用されていたと伝えられる。総体を黒漆塗とし、天井を土居に嵌め込んだ骨組み(帳骨)で支える構造である。地敷の畳上に帳台を置き、この上に大床子を据え、八重畳と茵を敷く。周囲には帷が廻らされている。帷の文様は、地を有職文様の小葵文で織り

貴人の居室から神様の座へ

だし、その上に繡(刺繍)で野薄に秋草、蝶・鳥(胴)と羽を笹葉で表現)文様に仕上げている。江戸時代における住吉大社神座の様子を窺うことができる。尚、御帳台とは、寢殿の中で二区画をなすために用いた帳(帷)を張った台のことで、貴人の御座所として使用され、後には神座としても使用されるに至った。

佐川記念神道博物館教授・学芸員  
岡田芳幸

オープンキャンパス  
こころ小路ツアー2011

オープンキャンパス こころ小路ツアー

学校見学会

6/12日 7/17日 8/21日 7/16日

11:00~16:00 11:00~16:00 11:00~16:00 13:00~16:00

日本のこころにふれるオープンキャンパス

各学科の学びを体験できる、楽しいイベントを用意しています。

参加者全員に「赤本」をプレゼント  
受験対策に欠かせない皇學館大学の「赤本」を、参加者全員にさしあげます。

参加特典

- 神道学科: なりきり神道教室
- 国文学科: いにしえのロマン紀行
- 国史学科: クイズ! 歴史発見
- コミュニケーション学科: 第一印象診断ゲーム
- 教育学科: 教育ワークショップ
- 現代日本社会学科: NIPPONを動かそう会議

※プログラム内容は実施月によって異なります。詳細はホームページをご覧ください。